TOKYO X 生産組合 設立10周年記念

発行  TOKYO X 生産組合
URL: http://tokyox.net/
フリーダイヤル：0120-398-029

東京SaBAQ牧場
TOKYO X 生産組合
初代組合長 青木 清

TOKYO X 生産組合の設立10周年誠におめでとうございます。
10年経過の中で関係各位の多大なる協力に深く感謝申し上げます。当時の
畜産試験場で食味のすばらしい合成豚が完成したという事で安心して
食べられる豚肉の生産を始めようという事になりました。
今ではトレサビリティという事が普通に言われるようになりましたが、当
時それは始めてこそしたのです。指定飼料についてはポストハーベストフ
リー、もちろん遺伝子組み換えなしの原料でいうという事でしたが、飼料
会社も時を同じくして崩れました。そこで現在のゼンケイさんにお願いする
ことになりました。ゼンケイさんには初めの少量の時から大切に活かして
いました。又、販売面についても幾つかの方々の意見を踏まえ、いろいろな
点で現在のミートコンペティオンさんに決まったのです。

飼料組合も本来何年かの経過の中で認められていくのでしょうか、生産が始
まる前からマスコミに取り上げられ、その点では大変助かりました。10年間
飼育してみて、合図難などが抜けて、難しいところがあるのが実情ですが今
後も他県の方々の協力をいただきながら生活を拡大していくようなには思え
ます。今後とも関係各位のご協力をいただきながら20周年を迎えられ
るようお願いいたします。

TOKYO X 生産組合
前組合長 前谷伸明

10周年記念、心よりお祝いいたしますとともに、この気高い豚肉作りブ
ロジェクトにお付き合いいただいている皆様に感謝の念で一杯です。

在任中から組合長、アソシエーション、連絡会議等も組織され、耳標・
欄卸し等の報告書の様式も整備される時期でした。しかし一方では、八王子
食肉処理場・畜産会の存続問題といった深刻な事態も直面していた時期でも
ありました。

また、立川に農業振興事務所が開設され、トウキョウ X の事実上の拠点
がここに移ると、組合全体の色合いが一段と濃くなり、組合の仕事量と責任
が増した感がありました。

10周年を迎えた今日、食の安全・安心が求められる中、食品業界の不祥事
の多いこと。どんなに立派な飼育マニュアル、管理マニュアルであっても、
それを実行するのは人の心。東京 X はその心の結晶と、改めて覚える。
生産者紹介

市川・久・東京都調布市
「新しい畜産物の提供により消費者に喜びのバブルを広げたい」との思いにこだわって育成しています。

藤浪信彦・茨城県常陸市
「自分の案で選んだお米を煎り茶で楽しむ」という思いを実現しています。

辻作門夫妻・長野県飯田市
広大な自然に恵まれた土地で、健康でのりのよい豚苗を育てています。

西川真・東京都八王子市
「食の安全と安心にこだわる」ことを目標に育成しています。

吉田幸彦・東京都世田谷区
高岡住宅地の豊かな自然の中で、自然に育まれた豚苗を育てています。

吉田次夫・長野県飯田市
「地元の自然に育まれる豚苗」を育てています。

前田朝太郎・東京都新宿区
「信頼できる豚苗を育成」を目標にしています。

栗原美夫夫妻・宮城県石巻市
「信頼できる豚苗を育成」を目標にしています。

柳本信・東京都新宿区
「自然に育まれた豚苗」を育成しています。

関根隆明・東京都調布市
「自然に育まれた豚苗」を育成しています。

松田正吉・山梨県甲府市
「自然に育まれた豚苗」を育成しています。

千秋唯・山梨県甲府市
「自然に育まれた豚苗」を育成しています。

藤田由美子・東京都調布市
「自然に育まれた豚苗」を育成しています。

山田昭夫夫妻・宮城県登米市
「自然に育まれた豚苗」を育成しています。

中村隆・東京都町田市
「自然に育まれた豚苗」を育成しています。

永田厚・静岡県掛川市
「自然に育まれた豚苗」を育成しています。

川村雅一夫妻・宮城県登米市
「自然に育まれた豚苗」を育成しています。

安藤由美子・東京都調布市
「自然に育まれた豚苗」を育成しています。
TOKYO X 生産組合10年の歩み

H18
- 第1回トウキョウ X種雜種同会合会開催（10月）
- 畜TV "どっちの料理ショー" 本日の特選素材で登場（7月）
- 畜TV "SMAP X SMAP" で食材に登場（11月）
- お客様アンケート調査実施（7月）

H17
- アグリフェスタ東京に出店（焼肉試食）（11月）
- TOKYO X 各商標登録取得（8月）
- TOKYO X 生産組合へ名称変更（4月）
- NPO法人CCCNETへTOKYO X 生産組合の事務委託開始（4月）
- 都外種飼育生産開始、組合ウェブサイト開設（3月）

H16
- 道の駅での癒し
- 北海道三元系北防震場中国農業実施（9月）
- 日経トレンドパークランド豚は本当にうまいのか特集で高く評価（9月号）
- "風の学校" との食育活動開始（6月）

H15
- 第1回トレーダビリティ検討委員会の開催（10月）
- 自主研究活動等育成事業の実施（7月）

H14
- "Japan Times" で紹介される
- "日本で初めての食実践として認められる"

H13
- TOKYO X 運営会議設立（7月）

H12
- "Japan Times" に掲載（7月）
- 第1回TOKYO X 畜肉販売協議会開催（3月）

H11
- "TOKYO X Association" に於こнов（10月）

H10
- "TOKYO X Association" に於こ Kovalev（3月）

H9
- "トウキョウ X" 畜種飼育制度として認定（7月）
- TOKYO 生産開始（7月）

H8
- 東京都高品質系統豚生産出荷組合設立（11月）
『TOKYO X』名前の由来
●美味しい肉質の豚をかけあわせてできた交雑種のX（クロス）
●未知の可能性X（エックス）を秘めた
●東京生まれの豚ということからTOKYO Xと名付けられました

『TOKYO X』独自の生産理念

Safety：安全、だから安心です。
●飼育期間中には、飼料に抗菌生物質を添加していません。また、ワクチン中心の
飼育プログラムに従い、予防的な考え方です。

Biotics：本来の生命の力を活かします
●指定飼料中のトウモロコシは、非遺伝子組換え作物でポストハーベストフリ
ーのものを採用しています。
●指定飼料は、脂肪の質を高める大麦を2割以上含んだ特別メニューです。

Animal welfare：快適な飼育環境の中で育てます
●動物本来の生理に沿った飼育管理を行うことで、より健康な豚に育つよう配
慮しています。
●豚房スペースは動物福祉先進国のドイツをお手本に、開放型の豚舎で十分な採
光と換気をキープした環境です。

Quality：3品種の合成による新しい系統豚です
●生産効率優先の改良ではなく、脂肪の質と味が良い「北京黒豚」、筋繊維が細
かく肉質が良い「パーキャラーソン」、脂肪交雑豚の「デュアロ種」をもとに、各々良いところを取り込んで改良した系統豚です。
●上品なさっぱりとした脂肪は、ほどよい柔らかさの美味しい肉に仕上がります。

『TOKYO X』こだわりの指定飼料
安全・安心・美味しさにこだわったTOKYO Xの飼料
の特徴は飼料穀物をNon-GMO（非遺伝子組換え）にしてい
ます。国産で調達できない穀物はNon-GMOのも
のを輸入しています。輸出国ではGMO品種の作付けが増
えており、一般には分別されずに流通されています。
Non-GMOの作物を輸入する場合にはきちんと分
別管理が必要になります。

この分別管理をIPハンドリング（Identity Preserved Handling）と言います飼料の主原料穀物のトウモロコシを例にとってみるとNon-GMOの契約栽培
業者がそろって仲介し、当社の指定飼料メーカーそれぞれがIPハンドリングの証明を
します。また、日本に到着したトウモロコシを日本の検査機関で検査します。検査が定め
られた基準以下である事を分別管理の証明が揃ってNon-GMOの表示が出来ます。このトウモロコ
シはポストハーベストブリ－（収穫後に農業を使用しない事）であることが契約栽培の条件の
ひとつとなっています。TOKYO Xではこのトウモロコシを使用しています。

『TOKYO X』トレサビリティ
トウキョウXは豚1頭ごとに耳縁をつけ管理しています。生産
情報を記録して、いつ生まれてどこでどのように育ったか、と
カットの情報など、お肉になるまでの過程がわかる仕組みにな
っています。
組合ウェブサイトから検索画面に入ることが
できます。

『TOKYO X』出荷頭数の推移
平成9年度から18年度にかけてのTOKYO X出荷頭数の推移を表したグラフ
東京都産業労働局農林水産局農業課

講師：鈴木靖里

TOKYO X 生産組合設立10周年、誠に贺しとうございます。

トウキョウXは、東京都、青森県、栃木県、山形県、秋田県、岩手県、宮城県、福島県、山梨県、新潟県、長野県、群馬県、静岡県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、高知県、広島県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の15都県が参加する全国的な農業組織です。

東京都産業労働局農林水産課の活動を支援するため、東京都と東京都が連携したトウキョウXの設立を実現したことが、東京都の農業を支える重要な役割を果たすことができました。東京都産業労働局農林水産課の活動を支援するため、東京都と東京都が連携したトウキョウXの設立を実現したことが、東京都の農業を支える重要な役割を果たすことができました。